
岐阜県立華陽フロンティア高等学校

校 長 増田 智至
学校住所 岐阜市西鶉6-69 電話 058-275-7185

1 会議の名称 令和2年度 岐阜県立華陽フロンティア高等学校 学校評議員会（第2回）

2 会議の構成

評議員	廣 瀬 富久夫	本校同窓会長
	前 田 貴 子	本校地域創生キャリアプランナー
	松 波 克 臣	(前)鶉自治連合会長
	南 谷 東 子	人権擁護委員
	山 口 永 真	通信制課程卒業生
		(委員名は五十音順)
学校関係者	松 野 恵	P T A会長
	丹 羽 多美子	校友会会長
学校側	増 田 智 至	校 長
	増 田 泰 志	副校長
	川 瀬 隆	定時制課程教頭
	堀 英 男	通信制課程教頭
	高 橋 明	事務部長
	山 村 奈美子	定時制課程教務主任
	山 田 きよみ	通信制課程教務主任

3 会議の目的 令和2年度の教育活動についての自己評価の報告と今後の課題について、ご意見、ご提言をいただく。

4 会議の方式 書面開催 [令和3年1月26日(火)～令和3年2月5日(金)]

5 会議の概要

(1) 学校評議員の意見に対する対応状況処理表（令和2年度第1回学校評議員会の提言を受けて）

(2) 定時制課程

- ア 自己評価の報告と今後の課題
- イ 学校評価アンケート結果（生徒／保護者）
- ウ 授業アンケート結果
- エ 不登校克服調査(1年生)
- オ 令和2年度進路状況
- カ 部活動の結果報告
- キ 新聞記事

(3) 通信制課程

- ア 自己評価の報告と今後の課題
- イ 学校評価アンケート結果（生徒／保護者）
- ウ 1年生アンケート結果

- エ 転編入生アンケート結果
- オ 令和2年度進路状況
- カ 部活動の結果報告

テーマ1 コロナ禍での学校運営・学校評価アンケート結果について

- 意見1 コロナ禍の中で、教員や生徒が一生懸命努力していることに頭が下がる。マスク、手洗い、三密回避などの対策が日常となっているが、常に緊張感をもって継続できるよう、具体的な対策を繰り返し呼びかけてクラスターが発生しないようお願いしたい。また、コロナにより精神的に疲弊している生徒へのフォローも併せてお願いしたい。
- 回答 今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として取り組まなければならないことが多々あり、校内消毒をはじめとした衛生環境の維持、三密防止対策などの物理的環境の整備や手立て、健康チェックや手指消毒の啓発など、試行錯誤や工夫しながらの取組で何とか乗り切ってこられた。
- 回答 懇談やこれまでに複数回実施している「心のアンケート」などを活用し、絶えず生徒の悩みに対するアンテナを高く維持し、生徒の状況把握に努めている。また、必要に応じて養護教諭、スクール相談員、特別支援教育支援員、臨床心理士などと連携し、組織として機能的な対応を行っている。
- 意見2 本校に入学後、不登校を克服している生徒が多いことは、日々の教員の粘り強い努力の賜物だと思う。授業や生徒への接し方などから、教員が生徒のためを思っていることを生徒たちも感じているのだと思う。
- 意見3 生徒たちが「本校に入学して良かった」と思えることは、本当にうれしいことである。そう思える学校にさせていただいていることに感謝する。今後も、学校が生徒を一人にしないことが大切で、生徒には学友をつくってほしい。
- 意見4 学校にICT環境が整いつつあるので、それを生かした教育をお願いしたい。
- 意見5 通信制は、コロナ禍により週1回のスクーリングができない等の大変な状況であったと思うが、動画配信やホームページ上での学習プリント公開等の様々な工夫をして、生徒アンケートでの満足度も80%以上と、教員の努力が伺える。今後とも生徒と心が通い合う学校の維持を期待する。
- 回答 コロナ禍によって学習環境の制限がされる中、生徒の学習機会と学力を保障するという観点に立ち、基盤的ツールとしてのICTを積極的に活用する工夫を図ってきた。このような状況であるからこそ、先端技術を駆使した新たな学びのシステムの提供と更なる可能性を見出すことができた。今後も、多様化する生徒のニーズに応えるべく、きめ細かな指導や支援を推し進めていきたい。

テーマ2 進路指導について

- 意見6 進路未定者の割合が増加しているという課題に対して、一般的に利用されている適性診断や自己分析などを活用してはどうか。自分の特性や能力の面から、何に適性があるのか、自分を深く知ることができれば、進路が見えてくるかもしれない。

- 意見7 来年度の課題として、コミュニケーション能力だけでなく、適応力や応用力の伸長につながる基礎的学力の定着は、就職試験での一般常識試験対策に有効になるので、是非行ってほしい。
- 意見8 今年度より導入されたタブレットを有効利用して進路決定に繋げていけるとよい。例えば、1・2年生の時から企業のHPを見たり、大学・専門学校のHPを検索したりして、情報をどのように知ればよいのか等を学ぶことにより、卒業年度に就職や進学の進路決定で迷う生徒が減るのではないかと思う。
- 意見9 就職や進学の面接指導でのマナー指導を、内定や合格の報告を想定した場面でも活用するのは、実践的でとても良い。コロナ禍で難しい状況ではあるが、今後もインターンシップを積極的に行っていってほしい。
- 意見10 コロナ禍で仕事なくなった等の話を聞くが、全ての業種で仕事がないわけではなく、忙しくて仕方がない業種もある。また、コロナ禍の親の収入減によって進学を諦めずに済むように、奨学金などの学生支援制度も活用しながら前向きに考えるような方向へと導いてほしい。
- 回 答 今年度はコロナ禍によって進路関係諸行事も計画通り実施できなかったが、来年度は社会性やコミュニケーション能力向上の機会を可能な限り提供できるよう、これまでのインターンシップをはじめ、一人一人の将来を考えた更なる有用な支援を検討し、実施していきたい。

6 会議のまとめ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的事態に直面することを通じて、新しい授業スタイルの発掘やICTを有効に活用した学びの工夫をすることができた。また、学力や学習機会の保障をはじめ、安心・安全な学校生活、社会性や人間性の育成など、本校の有する多面的な役割も再認識できた。

今回の会議でいただいた貴重なご意見やご提言、並びにご指摘いただいたことを真摯に受け止め、来年度の本校教育活動に取り入れるとともに、課題については早々に改善する方向で検討していきたい。

今後も、卒業後の出口や将来を見据えつつ、生徒一人一人に寄り添った、一層丁寧な指導や支援を継続し、保護者や地域の期待に応えられる学校を目指して取り組んでいきたい。